温泉 掲示(温泉法第18条第1項に基づく温泉成分の掲示)

浴用

1 源 泉 名 あしや温泉

2 温泉の泉質 ナトリウムー塩化物・炭酸水素塩泉 (Na-C1・HCO3泉) 低張性,弱アルカリ性,高温泉

温

泉

 \mathcal{O}

成

分

3 温泉の温度 源泉 42.5 ℃ (調査時の気温 13.9 ℃)

4 試料1kg中の成分,分量および組成

ノ『目ノナン	ミリク゛ラム	ミリバル	ミリバ ル%	り除けれ	ミリグ・ラム	ミリバル	ミリバ ル%
イー陽イオン	(mg)	(mval)	(mva1%)	ロ 陰イオン	(mg)	(mval)	(mval%)
リチウムイオン	0. 2	0.03	0. 18	塩化物イオン	347.6	9.80	54.96
ナトリウムイオン	3 3 7. 6	14.69	89.41	臭化物イオン	0. 7	0.01	0.06
カリウムイオン	7. 5	0. 19	1. 16	硫化水素イオン	0. 9	0.05	0. 28
マグネシウムイオン	5. 4	0.44	2. 68	炭酸水素イオン	486.6	7. 97	44.70
カルシウムイオン	20.9	1. 04	6. 33				
ストロンチウムイオン	0. 4	0.01	0.06				
バリウムイオン	0. 4	0.01	0.06				
マンガンイオン	0. 5	0.02	0. 12				
鉄イオン	0. 1	0.00	0.00				
陽イオン計	373.0	16.43	100.00	陰イオン計	835.8	17.83	100.00

ハー遊離成分					
非解離成分	ミリク゛ラム (mg)	ミリモル (mmol)	溶存ガス成分	ミリク゛ラム (mg)	ミリモル(mmo1)
メタケイ酸	56.6	0.72	遊離硫化水素	0. 1	0.00
メタホウ酸	9. 6	0. 22	遊離二酸化炭素	23.9	0. 54
非解離成分計	66. 2	0. 94	溶存ガス成分計	24. 0	0. 54

成分総計 1.30 g/kg

ニ その他微量成分					
アルミニウムイオン	0. 1	mg/kg未満	総ひ素	0.	0 1 mg/kg未満
銅イオン	0.01	mg/kg未満	総水銀	0.	0005 mg/kg未満
亜鉛イオン	0.01	mg/kg未満	鉛イオン	0.	0 1 mg/kg未満
カドミウムイオン	0.01	mg/kg未満	炭酸イオン	0.	1 mg/kg未満

- 5 温泉の成分の分析年月日 平成29年12月5日
- 6 登録分析機関の名称及び登録番号 株式会社HER(登録番号 薬第11E-0001号)

この温泉は、次のような適応症もありますが、禁忌症もありますのでその場合は入浴を控えてく

禁忌症及び適応症

1 禁忌症

ださい。

[一般的禁忌症]

病気の活動期(特に熱のあるとき), 活動性の結核,進行した悪性腫瘍又は高 度の貧血など身体衰弱の著しい場合,少 し動くと息苦しくなるような重い心臓 又は肺の病気,むくみのあるような重い 腎臓の病気,消化管出血,目に見える出 血があるとき,慢性の病気の急性憎悪 期。

[泉質別禁忌症]

無し。

2 適応症

〔一般的適応症〕

筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え性、末梢循環障害、胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、軽症高血圧、耐糖能異常(糖尿病)、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状(睡眠障害、うつ状態など)、病後回復期、疲労回復、健康増進。

[泉質別適応症]

きりきず,末梢循環障害,冷え性,うつ状態,皮膚乾燥症。

(1) 入浴前の注意

ア 食事の直前,直後及び飲酒後の入浴は避ける こと。酢酊状態での入浴は特に避けること。

浴用の方法及び注意

- イ 過度の疲労時には身体を休めること。
- ウ 運動後30分程度の間は身体を休めること。
- エ 高齢者,子供及び身体の不自由な人は,1人 での入浴は避けることが望ましいこと。
- オ 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度 に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
- カ 入浴時,特に起床直後の入浴時などは脱水症 状等にならないよう,あらかじめコップ一杯 程度の水分を補給しておくこと。
- (2) 入浴方法
- ア 入浴温度 高齢者,高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は,42℃以上の高温浴は避けること。
- イ 入浴形態 心肺機能の低下している人は, 全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこ と。
- ウ 入浴回数 入浴開始後数日間は、1日当た $91\sim2$ 回とし、慣れてきたら $2\sim3$ 回まで 増やしてもよいこと。
- エ 入浴時間 入浴温度により異なるが、1回 当たり、初めは3~10 分程度とし、慣れてき たら15~20分程度まで延長してもよいこと。
- (3) 入浴中の注意
- ア 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度 にして静かに入浴すること。
- イ 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさない ようにゆっくり出ること。
- ウ めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、 近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低 い位置に保ってゆっくり出て、横になって回 復を待つこと。
- (4) 入浴後の注意
- ア 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保 温及び30分程度の安静を心がけること

(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等) や必要に応じて塩素 消毒等が行われている場合には、温泉成分等 を温水で洗い流した方がよいこと。)。

- イ 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の 水分を補給すること。
- (5) 湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日~1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の 湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることが ある。このような状態が現れている間は、入 浴を中止するか、又は回数を減らし、このよ うな状態からの回復を待つこと。

(6) その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

ア 源泉温度が高いので水道水を加水しています。

温泉の利用に関する情報

- イ 衛生管理のため、塩素系薬剤を使用して います。
- ウ 源泉かけ流し方式
- エ 飲用には適しませんので飲まないでください。

温泉 場 示 (温泉法第18条第1項に基づく温泉成分の掲示)

浴用(温泉スタンド)

1 源 泉 名 あしや温泉

2 温泉の泉質 ナトリウムー塩化物・炭酸水素塩泉(Na-C1・HCO3泉) 低張性,弱アルカリ性,高温泉

温

泉

 \mathcal{O}

成

分

- 3 温泉の温度 源泉 42.5 ℃ (調査時の気温 13.9 ℃)
- 4 試料1kg中の成分,分量および組成

2 7E 2	ミリク゛ラム	ミリバル	ミリバル%	ロート	ミリグ・ラム	ミリバル	ミリハ゛ル%
イー陽イオン	(mg)	(mval)	(mva1%)	ロ 陰イオン	(mg)	(mval)	(mval%)
リチウムイオン	0. 2	0.03	0.18	塩化物イオン	3 4 7. 6	9.80	54.96
ナトリウムイオン	3 3 7. 6	14.69	89.41	臭化物イオン	0. 7	0.01	0.06
カリウムイオン	7. 5	0.19	1. 16	硫化水素イオン	0. 9	0.05	0.28
マグネシウムイオン	5. 4	0.44	2. 68	炭酸水素イオン	486.6	7. 97	44.70
カルシウムイオン	20.9	1. 04	6. 33				
ストロンチウムイオン	0. 4	0.01	0.06				
バリウムイオン	0. 4	0.01	0.06				
マンガンイオン	0. 5	0.02	0. 12				
鉄イオン	0. 1	0.00	0.00				
陽イオン計	373.0	16.43	100.00	陰イオン計	835.8	17.83	100.00

ハ遊離成分					
非解離成分	ミリク゛ラム (mg)	ミリモル (mmol)	溶存ガス成分	ミリク゛ラム (mg)	ミリモル(mmol)
メタケイ酸	56.6	0.72	遊離硫化水素	0. 1	0.00
メタホウ酸	9. 6	0. 22	遊離二酸化炭素	23.9	0. 54
非解酶成分計	66. 2	0. 94	溶存ガス成分計	24.0	0. 54

成 分 総 計 1.30 g/kg

ニ その他微量成分				
アルミニウムイオン	0. 1	mg/kg未満	総ひ素	0.01 mg/kg未満
銅イオン	0.01	mg/kg未満	総水銀	0.0005 mg/kg未満
亜鉛イオン	0.01	mg/kg未満	鉛イオン	0.01 mg/kg未満
カドミウムイオン	0.01	mg/kg未満	炭酸イオン	0. 1 mg/kg未満

- 5 温泉の成分の分析年月日 平成29年12月5日
- 6 登録分析機関の名称及び登録番号 株式会社HER(登録番号 薬第11E-0001号)

この温泉は、次のような適応症もありますが、禁忌症もありますのでその場合は入浴を控えてください。

禁忌症及び適応症

1 禁忌症

〔一般的禁忌症〕

病気の活動期(特に熱のあるとき), 活動性の結核,進行した悪性腫瘍又は 高度の貧血など身体衰弱の著しい場 合,少し動くと息苦しくなるような重 い心臓又は肺の病気,むくみのあるよ うな重い腎臓の病気,消化管出血,目 に見える出血があるとき,慢性の病気 の急性憎悪期。

[泉質別禁忌症]

無し。

2 適応症

[一般的適応症]

筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ,変形性関節症,腰痛症,神経痛,五十肩,打撲,捻挫などの慢性期),運動麻痺における筋肉のこわばり,冷え性,末梢循環障害,胃腸機能の低下(胃がもたれる,腸にガスがたまるなど),軽症高血圧,耐糖能異常(糖尿病),軽い高コレステロール血症,軽い喘息又は肺気腫,痔の痛み,自律神経不安定症,ストレスによる諸症状(睡眠障害,うつ状態など),病後回復期,疲労回復,健康増進。

〔泉質別適応症〕

きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ 状態、皮膚乾燥症。

- (1) 入浴前の注意
- ア 食事の直前,直後及び飲酒後の入浴は避けること。酢酒T状態での入浴は特に避けること。

浴用の方法及び注意

- イ 過度の疲労時には身体を休めること。
- ウ 運動後30分程度の間は身体を休めること。 エ 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1
- 人での入浴は避けることが望ましいこと。 オ 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温
- オ 浴槽に入る前に、手足から掛け場をして温 度に慣らすとともに、身体を洗い流すこ と。
- カ 入浴時,特に起床直後の入浴時などは脱水 症状等にならないよう,あらかじめコップ 一杯程度の水分を補給しておくこと。
- (2) 入浴方法
- ア 入浴温度 高齢者,高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は,42℃以上の高温浴は避けること。
- イ 入浴形態 心肺機能の低下している人 は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ま しいこと。
- ウ 入浴回数 入浴開始後数日間は, 1日当 たり1~2回とし, 慣れてきたら2~3回 まで増やしてもよいこと。
- エ 入浴時間 入浴温度により異なるが,1 回当たり,初めは3~10分程度とし,慣れてきたら15~20分程度まで延長してもよいこと。
- (3) 入浴中の注意
- ア 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。
- イ 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。
- ウ めまいが生じ、又は気分が不良となった時 は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から 頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横に なって回復を待つこと。
- (4) 入浴後の注意
- ア 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。)。
- イ 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度 の水分を補給すること。
- (5) 湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日~1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

(6) その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは 入れないこと。

これらの項目は、源泉における全身を対象とした 浴用の禁忌症・注意事項及び適応症です。

ア 衛生管理のため、塩素系薬剤を使用しています。

温泉の利用に関する情報

イ 飲用には適しませんので飲まないでく ださい。

温泉 場 示 (温泉法第18条第1項に基づく温泉成分の掲示)

浴用(足湯)

1 源 泉 名 あしや温泉

2 温泉の泉質 ナトリウムー塩化物・炭酸水素塩泉(Na-C1・HCO3泉) 低張性,弱アルカリ性,高温泉

温

泉

 \mathcal{O}

成

分

- 3 温泉の温度 源泉 42.5 ℃ (調査時の気温 13.9 ℃)
- 4 試料1kg中の成分,分量および組成

7 7日 7 十 7 7	ミリク゛ラム	ミリバル	ミリバル%	ロ 除しむ	ミリク゛ラム	ミリバル	ミリバル%
イー陽イオン	(mg)	(mval)	(mval%)	ロ 陰イオン	(mg)	(mval)	(mva1%)
リチウムイオン	0. 2	0.03	0. 18	塩化物イオン	347.6	9.80	54.96
ナトリウムイオン	3 3 7. 6	14.69	89.41	臭化物イオン	0. 7	0.01	0.06
カリウムイオン	7. 5	0.19	1. 16	硫化水素イオン	0. 9	0.05	0. 28
マグネシウムイオン	5. 4	0.44	2. 68	炭酸水素イオン	486.6	7. 97	44.70
カルシウムイオン	20.9	1. 04	6. 33				
ストロンチウムイオン	0. 4	0.01	0.06				
バリウムイオン	0. 4	0.01	0.06				
マンガンイオン	0. 5	0.02	0. 12				
鉄イオン	0. 1	0.00	0.00				
陽イオン計	373.0	16.43	100.00	陰イオン計	835.8	17.83	100.00

ハー遊離成分					
非解職成分	ミリク゛ラム (mg)	ミリモル (mmol)	溶存ガス成分	ミリク゛ラム (mg)	ミリモル(mmol)
メタケイ酸	56.6	0.72	遊離硫化水素	0. 1	0.00
メタホウ酸	9. 6	0. 22	遊離二酸化炭素	23.9	0. 54
非解離成分計	66. 2	0. 94	溶存ガス成分計	24. 0	0. 54

成 分 総 計 1.30 g/kg

ニ その他微量成分						
アルミニウムイオン	0. 1	mg/kg未満	総ひ素	0.	0 1	mg/kg未満
銅イオン	0.01	mg/kg未満	総水銀	0.	0005	mg/kg未満
亜鉛イオン	0.01	mg/kg未満	鉛イオン	0.	0 1	mg/kg未満
カドミウムイオン	0.01	mg/kg未満	炭酸イオン	0.	1	mg/kg未満

- 5 温泉の成分の分析年月日 平成29年12月5日
- 6 登録分析機関の名称及び登録番号 株式会社HER(登録番号 薬第11E-0001号)

この温泉は、次のような適応症もありますが、禁忌症もありますのでその場合は入浴を

禁忌症及び適応症

1 禁忌症

控えてください。

〔一般的禁忌症〕

病気の活動期(特に熱のあるとき), 活動性の結核,進行した悪性腫瘍又は 高度の貧血など身体衰弱の著しい場 合,少し動くと息苦しくなるような重 い心臓又は肺の病気,むくみのあるよ うな重い腎臓の病気,消化管出血,目 に見える出血があるとき,慢性の病気 の急性憎悪期。

[泉質別禁忌症]

無し。

2 適応症

[一般的適応症]

筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ,変形性関節症,腰痛症,神経痛,五十肩,打撲,捻挫などの慢性期),運動麻痺における筋肉のこわばり,冷え性,末梢循環障害,胃腸機能の低下(胃がもたれる,腸にガスがたまるなど),軽症高血圧,而糖能異常(糖尿病),軽い高コレステロール血症,軽い喘息又は肺気腫,痔の痛み,自律神経不安定症,ストレスによる諸症状(睡眠障害,うつ状態など),病後回復期,疲労回復,健康増進。

〔泉質別適応症〕

きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ 状態、皮膚乾燥症。

- (1) 入浴前の注意
- ア 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酢酒が状態での入浴は特に避けること。

浴用の方法及び注意

- イ 過度の疲労時には身体を休めること。
- ウ 運動後30分程度の間は身体を休めること。 エ 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1
- 人での入浴は避けることが望ましいこと。 オ 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温
- オ 浴槽に入る前に、手足から掛け場をして温 度に慣らすとともに、身体を洗い流すこ と。
- カ 入浴時,特に起床直後の入浴時などは脱水 症状等にならないよう,あらかじめコップ 一杯程度の水分を補給しておくこと。
- (2) 入浴方法
- ア 入浴温度 高齢者,高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は,42℃以上の高温浴は避けること。
- イ 入浴形態 心肺機能の低下している人 は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ま しいこと。
- ウ 入浴回数 入浴開始後数日間は, 1日当 たり1~2回とし, 慣れてきたら2~3回 まで増やしてもよいこと。
- エ 入浴時間 入浴温度により異なるが,1 回当たり,初めは3~10分程度とし,慣れてきたら15~20分程度まで延長してもよいこと。
- (3) 入浴中の注意
- ア 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。
- イ 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。
- ウ めまいが生じ、又は気分が不良となった時 は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から 頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横に なって回復を待つこと。
- (4) 入浴後の注意
- ア 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。)。
- イ 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度 の水分を補給すること。
- (5) 湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日~1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

(6) その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは 入れないこと。

これらの項目は、源泉における全身を対象とした 浴用の禁忌症・注意事項及び適応症です。

ア 衛生管理のため、塩素系薬剤を使用しています。

温泉の利用に関する情報

イ 飲用には適しませんので飲まないでく ださい。